

平成25年度 第2回 桑名市子ども・子育て会議 議事録

日 時	平成25年10月2日(水) 午後1時から午後3時10分ごろ
場 所	市民会館 大会議室(桑名市中央町3丁目20番地)
出席委員	伊藤香、伊藤直和、大橋了子、加藤隆明、柴田幸男、 下間賢了、高橋恵美子、津田浩二、中谷直子、野口典子(◎)、 濱内洋孝、松岡典子(○)、松岡初文、水谷秀史、水谷美保、横山悦子、 渡部美紀子(敬称略、五十音順)(◎:委員長、○:副委員長)
傍聴人数	11名
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 議事<ol style="list-style-type: none">(1) ニーズ調査票の検討について(グループワーク)(2) ヒアリング・ワークショップ等の実施について(3) その他3. 閉会

1. 開会

2. 委員数確認

欠席：稲垣委員、奥田委員

3. 委員自己紹介（前回欠席委員）

（伊藤香委員）

こんにちは。多度の主任児童委員をしている伊藤香です。私は子育てをしている中で少し問題を感じ、NPO活動を始めた。その後、ボランティアやNPOを支援するための中間支援の活動を始め、そこで情報誌を作成して10年になる。現在は、ボランティアやNPOを支援するための基金づくりに最も力を注いでいる。よろしくお願いします。

4. 協議事項

- (1) ニーズ調査票の検討について（グループワーク）
- (2) ヒアリング・ワークショップ等の実施について
- (3) その他

5. 議 事

(1)について

※ 資料に基づき事務局説明

（野口委員長）

調査票というのは、10人が作れば10通り出来上がると言われており、皆さん全員から合意をいただくのは至難の業だが、たくさんのご意見をありがとうございました。皆さんがそれぞれの立場で想うご意見をなるべく取り入れるべく努力したつもりである。ただ、私個人としては、まだ設問の分量が多いと感じている。長年調査をやってきた経験から言うと、答える側が回答に30分以上かかるとしんどくなってきてしまい、途中で放棄されてしまう。そのため、調査票の前半と後半で回答のトーンが変わってくる可能性があり、ちょっと酷な調査票だなと感じている。本日のワークショップでは、既に皆さんからご意見を頂戴した調査票に対して、まだ納得していない部分をさらに詰めていく作業をお願いしたい。私個人としては、前回の調査から継続して質問する項目は、できれば落とさたくないと考えている。この後のグループワークで皆さんをお願いしたいの

は、これ以上設問を追加するのではなく、今回の趣旨から外れている設問、ワークショップやヒアリング調査でフォローできる設問などを省き、できるだけコンパクトにしたいと思っている。ただ、皆さんもお立場上どうしても聞きたいという設問があると思うので、忌憚のないご意見を頂戴できればと思う。

【グループワーク】

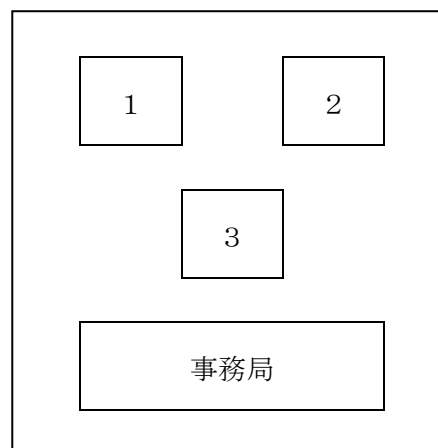
※ 委員が各グループに分かれて、調査票の検討を開始。

1 グループ：伊藤（香）委員、加藤委員、高橋委員、濱内委員、水谷（秀）委員、渡部委員

2 グループ：伊藤（直）委員、柴田委員、津田委員、松岡（典）副委員長、水谷（美）委員

3 グループ：大橋委員、下間委員、中谷委員、松岡（初）委員、横山委員

（以上、五十音順）



（野口委員長）

多少時間切れになってしまったかもしれないが、ここで区切りをつけたい。この後グループワークの結果を発表してもらい、共有化するが、頂戴したご意見は集約するのにお時間を頂戴したい。最終的にはどこかで決断をしなければいけないが、少なくとも各グループで合意したことについては、この調査票に反映するようにしたい。最終チェックは事務局と委員長、副委員長で確認することになると思うが、もう一度この委員会を開催した方がよろしいか。または、集約した結果を委員の皆さんに送付し、ご確認いただく方法にするか。調査票は、検討すればするほど泥沼化していくこともあるのだが、皆さんにご納得いただかないと私も承認できない。

（加藤委員）

集約したものを送付してもらっても、それに対してまた意見が出れば、会議を開かざるを得なくなる。

(野口委員長)

その段階で決断するというのでは、時間的に間に合わない。事務局は10月中に調査票を固めたいそうだが、10月中にもう一度会議を開くことは難しいと思う。

(事務局)

10月中の開催であれば、中旬頃と想定している。ただ、資料作成の都合上、資料の送付は会議開催の直前になることをご了承いただきたい。

(野口委員長)

調査の実施はいつを予定しているのか。

(事務局)

現時点で10月31日の発送を予定しているが、1週間程度は猶予期間がある。

(野口委員長)

いずれにしても、10月20日前後で調査票を固めたいと思う。実際に会議を開催するかは別として、一応開催日を確保しておくこととしたい。事務局には後程日程表の配布をお願いします。

それでは、グループワークの結果をご報告いただき、皆で共有したいと思う。

【1 グループ：濱内委員（発表要旨）】

- ・前回配布資料3について、事務局の仕事の欄に「調査票の分析」とあるが、「データの解析」として認識してほしい。「分析」は委員で行うのではないか。
- ・本日の資料1-4について、既存の事業に関する情報の告知は必要だが、認定ことも園に関する中途半端な資料を送ると、保護者に誤解される可能性がある。やっていない事業については必要ないという意見があった。
- ・「質的な充実」など全体として専門用語が多いので、保護者が理解できる言葉を用いてほしい。
- ・就学前調査票Q10について、回答欄がわかりにくい。選択肢1～5を列記し、日数・時間を記入する欄は1つにした方がシンプルで良い。
- ・就学前調査票Q17-3について、保育所としては、把握しているのであればなくてもいい設問ではないか。
- ・就学前調査票Q27について、回答できる数を1つにする必要はない。
- ・就学前調査票Q29について、設問文で1年間と限定しているが、「過去に」にしても良いのではないか。
- ・就学前調査票Q23-1について、選択肢に子育て支援センターのすべてを列記する必

要はない。「子育て支援センターを利用していますか」と、週何回、月何回をたずねれば済む。各個別の回数は、各子育て支援センター自身が把握しているはず。

- ・就学前調査票Q37について、母親に対する設問なので、選択肢5「専業主婦（夫～）」に、“（夫）”は必要ない。
- ・就学前調査票Q38について、「～感じることは～」ではなく、「～感じたことは～」とした方がよい。選択肢が2つなので、（○は1つだけ）の記載は必要ない。
- ・就学前調査票13頁Gの表記について、「～利用希望について～」だけではなく、“利用状況”の一語も入れた方がよい。
- ・就学前調査票Q48について、選択肢は年齢だけではなく、年少、年中、年長などを追記した方がわかりやすい。
- ・就学前調査票Q53について、選択肢4～7の「質的な充実」「量的な充実」では意味がわからない。選択肢8も誤解を招きやすい。選択肢9「費用負担の軽減」は保護者の皆が○をつけると思うが、市としてできないことは載せない方がよい。設問自体を削除しても構わない。
- ・就学前調査票Q45について、選択肢6は具体的な方法だが、それ以外の「充実させる」は趣旨が異なるので工夫してほしい。

【2グループ：松岡副委員長（発表要旨）】

- ・1グループと同じ内容については省略させていただく。回答者の負担を軽減することを議論のポイントとした。
- ・就学前調査票Q37について、選択肢が13も必要なのか。経済的な理由、働きがいなどにまとめてコンパクトにし、それ以外をその他として記載してもらえばよい。すべてに目を通す手間が省ける。
- ・就学前調査票Q24について、A・B・Cすべてに、はい/いいえで○をつけるのは負担が大きい。また、⑬の子ども総合相談センターは他の設問でも同じことを聞いているので、削除した方がよい。また、B「これまでに利用したことがある」の列を削除しても構わない。
- ・調査票全般について、数字を記入する際に、2ケタの数字を2つの□に分けて記入するのが手間になる。回答者の負担を減らすよう工夫した方がよい。
- ・就学前調査票Q41-1について、育児休暇から復帰した時期の子どもの年齢を思い出すのが難しい人もいる。母親が育児休暇を取得した期間と同じだと思うので、設問文を見直してほしい。

- ・小学生調査票Gについて、Q23まで放課後子ども教室が出てこないのので、全体として回答しにくい。
- ・小学生調査票Q37について、回答選択肢「あてはまる」「ほぼあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」だと、言葉の意味を理解するのが明快にいかない。表記を「あてはまる」 ←————→ 「あてはまらない」とした方が回答しやすい。
- ・回収方法について、県外の園・学校に行っている場合は回収が困難なので、郵送でやった方が良い。

【3グループ：中谷委員（発表要旨）】

- ・1・2グループの発表になかったものだけ報告する。
- ・就学前調査票Q53の選択肢8について、今の時点で認定こども園を判断させる、選択させるものではないのではないかと。
- ・（○はいくつでも）と表記されている設問について、回答数にきりがなくなるので、選択肢が10を超える場合に（○は5つまで）（○は3つまで）とした方が良い。

（野口委員長）

ありがとうございました。私も、調査票に使われている言葉遣いが少し硬いと感じている。これを打開するためには、各委員の身近な人に、試しに調査票に回答してもらうことも必要だと思う。これにご回答いただくのは、主に20代、30代であり、その方々が日常で使っている言葉が平仮名化、カタカナ化している場合もあるので、若い世代に点検していただくのも手だと思う。頂戴したご意見を集約するのは大変だと思うが、事務局サイドで気付いた点も含めて修正していきたい。

それでは、議事の（2）に移る。

（2）について

※ 資料に基づき事務局説明

（野口委員長）

今日は調査票案の検討にご注力いただいたが、それだけではなく、まさに質的な声を拾い出していこうとするのがこのヒアリング・ワークショップの試みであり、なかなか骨の折れる作業ではあるが、是非皆さんにご協力いただきながら、皆さんの周りにこういふことを考える人たちをつくっていくという意味でもご参加いただければと思う。日程が非常にタイトなことを憂慮しているが、ヒアリングやワークショップは、やりながら仲間が増えていき、回数が増えていくというのをこれまでの経験からわかっているの

で、必ずしもこの期間に限らないと思う。

本日の議題はここまでのので、(3)「その他」に移る。

(3)について

(事務局)

日程調整用の資料を配布させていただく。調整表は期日までにご提出いただくようお願いしたい。調整表は10月分と11月分をあわせて配布させていただく。

第1回の議事録について、記載に問題等があれば今週金曜日までに事務局にご連絡いただきたい。修正後、市ホームページに掲載する。

(野口委員長)

何とか日程調整にご協力いただきたい。本日はありがとうございました。

(以上)